

筒井康隆バイオグラフィ		『漂流 本から本へ』中での言及作品
1934 昭和9年	室戸台風の直後に誕生	
↓		
1940 昭和15年	カトリック聖母園	田河水泡『のらくろ』
1941 昭和16年	南田辺国民学校	江戸川亂歩『少年探偵団』、弓削芳夫『西遊記』、ボアゴベ『鐵假面』
1942 昭和17年	幼少年期	謝花凡太郎・画『勇士イリヤ』
1943 昭和18年		坪田譲二『子供の四季』
1944 昭和19年	千里第二国民学校	江戸川亂歩『孤島の鬼』、デュマ『モンテ・クリスト伯』
1945 昭和20年		夏目漱石『吾輩は猫である』、メリメ『マテオ・ファルコーネ』
1946 昭和21年	中大江小学校	手塚治虫『ロスト・ワールド(前世紀)』、マン『ブッデンブローカー家』、サバチニ『スカラムッシュ』
1947 昭和22年	東第一中学校	ウェルズ『宇宙戦争』
1948 昭和23年	児童劇団	宮沢賢治『風の又三郎』、パイコフ『牝虎』、アプトン・シンクレア『人われを大工と呼ぶ』→『ジーザス・クライスト・トリックスター』に影響
1949 昭和24年		イブセン『ペール・ギュント』、イバーニェス『地中海』
1950 昭和25年	春日丘高校	演劇青年時代 アルツイバーシェフ『ザアニン』、ショーベンハウエル『随想録』、ケッラアマン「トンネル」、チャーホフ『結婚申込』
1951 昭和26年		ズウデルマン『猫橋・憂愁夫人』、クリスティ『そして誰もいなくなった』
1952 昭和27年	同志社大学・関西芸術アカデミー	フロイド『精神分析入門』、井伏鱒二『山椒魚』、メンジヤー『おのれに背くもの』、横光利一『機械』
1953 昭和28年		
1954 昭和29年	青猫座	飯沢匡『北京の幽霊』、高良武久『性格学』、福田恒存『壘壘奪取』、ヘミングウェイ『日はまた昇る』、ハメット『赤い収獲』、カフカ『審判』
1955 昭和30年		カント『判断力批判』
1956 昭和31年		
1957 昭和32年	乃村工務社入社	デビュー前夜 フィニー『盗まれた街』、三島由紀夫『禁色』
1958 昭和33年		メイラー『裸者と死者』→『馬の首風雲録』に影響
1959 昭和34年	SFマガジン創刊	
1960 昭和35年	家族同人誌NULL創刊	ディック『宇宙の眼』、ブラウン『発狂した宇宙』
1961 昭和36年	ヌル・スタジオ設立	シェクリイ『人間の手がまだ触れない』
1962 昭和37年	ハヤカワ・SFコンテスト選外佳作	
1963 昭和38年		
1964 昭和39年	第3回日本SF大会DAICON主催	セリヌヌ『夜の果ての旅』、プーアスティン『幻影の時代』→『東海道戦争』に影響
1965 昭和40年	結婚、専業作家、東京に転居	生島治郎『黄土の奔流』、リースマン『孤独な群衆』、川端康成『片腕』
1966 昭和41年		
1967 昭和42年	「ベトナム観光公社」直木賞候補	オールディス『地球の長い午後』→『ボルノ惑星のサルモネラ人間』に影響
1968 昭和43年	作家になる	つげ義春『ねじ式』、ピアス『アウル・クレーク橋の一事件』、東海林さだお『トコトントン物語』
1969 昭和44年		
1970 昭和45年		ローレンツ『攻撃』、阿佐田哲也『麻雀放浪記』→『俗物図鑑』に影響
1971 昭和46年		ル・クレジオ『調書』、新田次郎『八甲田山死の彷徨』
1972 昭和47年	神戸に転居	
1973 昭和48年	ネオ・ヌル発足	
1974 昭和49年		
1975 昭和50年	第14回日本SF大会SHINCON主	
1976 昭和51年		山田風太郎『幻燈辻馬車』
1977 昭和52年		コルタサル『遊戯の終り』
1978 昭和53年	『虚人たち』泉鏡花賞	
1979 昭和54年		大江健三郎『同時代ゲーム』、トゥルニエ『赤い小人』
1980 昭和55年		
1981 昭和56年	新たな飛躍	
1982 昭和57年		
1983 昭和58年		マルケス『族長の秋』
1984 昭和59年		フライ『批評の解剖』、ドノソ『夜のみだらな鳥』
1985 昭和60年		イーグルトン『文学とは何か』、ディケンズ『荒涼館』→『パブリカ』に影響
1986 昭和61年		
1987 昭和62年	『夢の木坂分岐点』谷崎潤一郎賞	
1988 昭和63年		
1989 平成元年		
1990 平成2年		
1991 平成3年		
1992 平成4年		
1993 平成5年	断筆宣言	丸谷オ一『女ざかり』
1994 平成6年		
1995 平成7年	阪神大震災被災	
1996 平成8年		
1997 平成9年	執筆再開	
1998 平成10年	『わたしのグランバ』読売文学賞	
1999 平成11年		
2000 平成12年		
2001 平成13年		
2002 平成14年	紫綬褒章	
↓		
2010 平成22年	菊池寛賞	
2011 平成23年		

ハイデガー『存在と時間』（連載最終回で取り上げ。特に時期の明記はない）